

2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ【行程表】の概要

R4 (2022) .3.29 栃木県環境森林部気候変動対策課

● はじめに

- 地球温暖化による気候変動の影響は、私たちの生活に及んでいます。
- この影響はさらに深刻化すると予測され、地球温暖化を食い止めるには、今、行動を起こす必要があります。

気候変動による様々な影響



大規模な台風の発生



豪雨による浸水被害



熱中症リスクの増加

21世紀末の栃木（有効な対策を講じない場合）

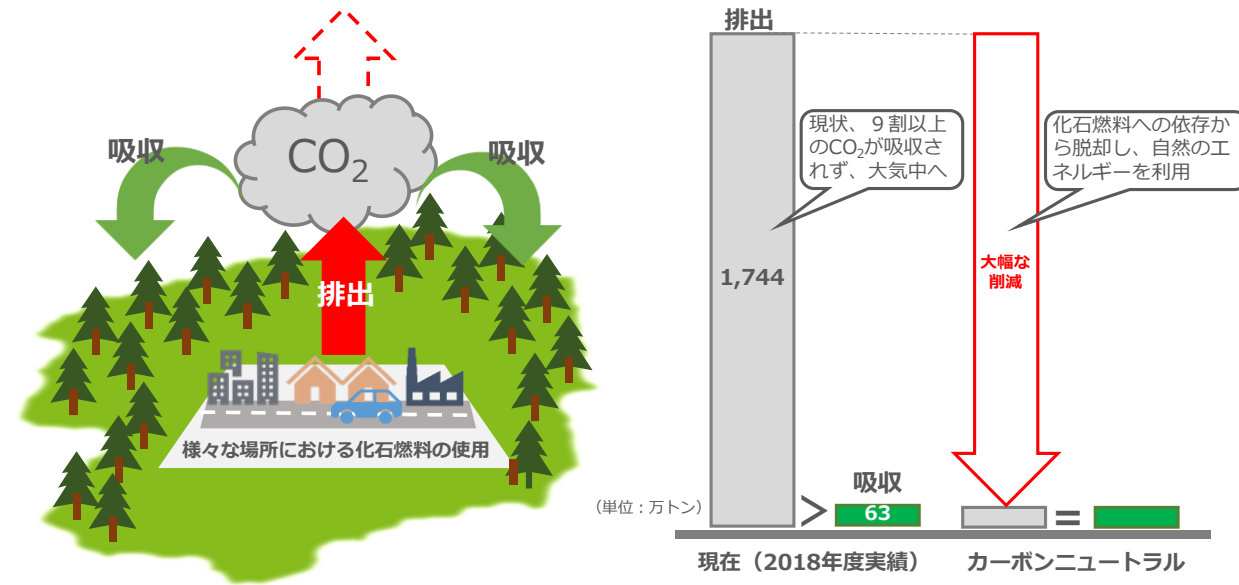
栃木県（宇都宮）	2020年	21世紀末
年平均気温	15.0℃ (過去100年間で約2.33℃上昇)	約17.5～18℃
猛暑日（※）の年間日数 ※日最高気温35℃以上	8日 (過去80年間で約6.2日増加)	約1ヶ月 (特に県南・県央部)
熱帯夜（※）の年間日数 ※日最低気温25℃以上	12日 (過去80年間で約4.4日増加)	約1.5～2ヶ月 (特に県南・県央部)
冬日（※）の年間日数 ※日最低気温0℃未満	45日 (過去80年間で約44.5日減少)	約1ヶ月

● 地球温暖化を防ぐには

- 化石燃料の使用等により、温室効果ガス（CO₂等）が増加し、気温が上昇しています。
- 地球温暖化を防ぐには、CO₂の排出を森林が吸収できる量まで減らす必要があります。

カーボンニュートラルのイメージ

(森林が吸収できる量までCO₂の排出を削減)



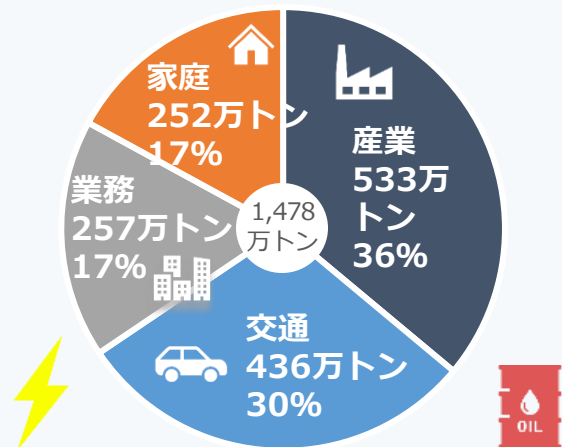
カーボンニュートラル実現に必要な取組等をロードマップで示します

● 栃木県のCO₂排出状況

1,744万トン (2018年度)

エネルギー由来のCO₂
1,478 (万トン) 85%

燃料の燃焼、他者から供給された電気
又は化石燃料の使用に伴い排出

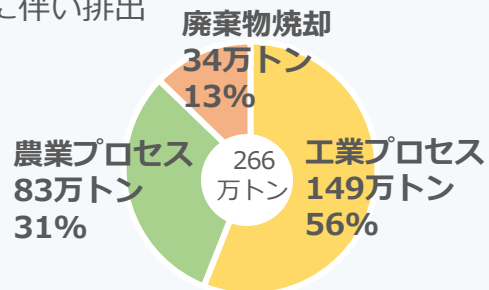


電力 47%

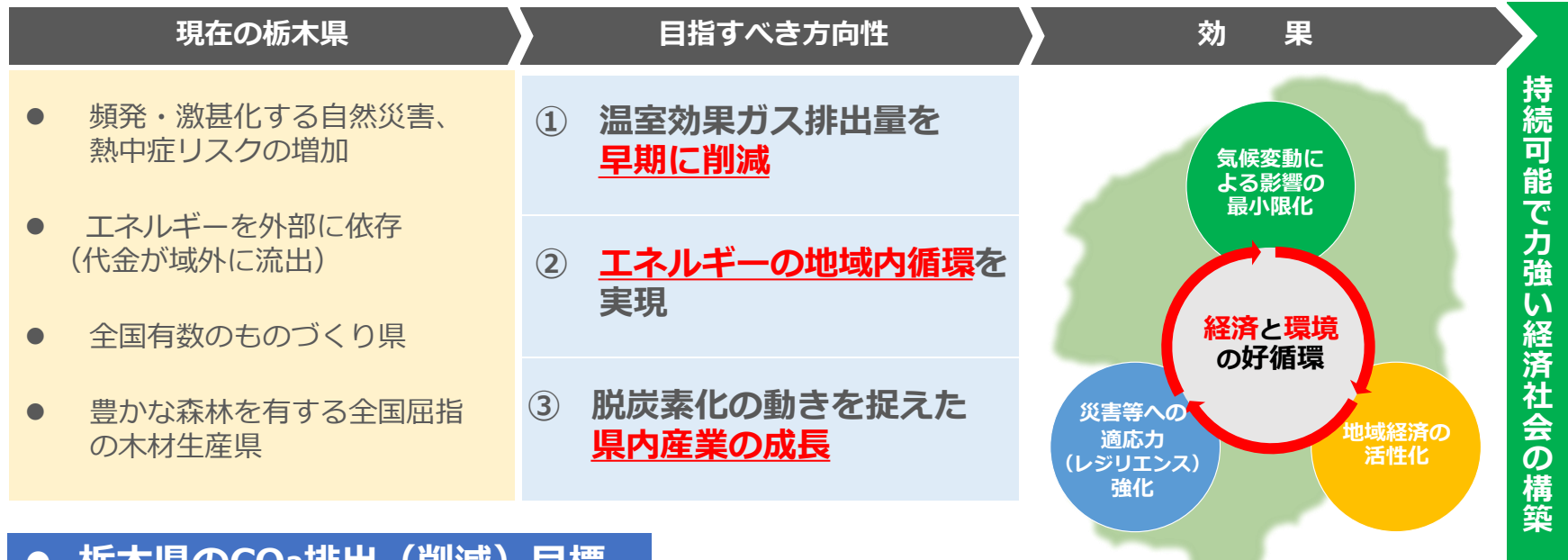
化石燃料 53%

非エネルギー由来のCO₂
266 (万トン) 15%

工業プロセスの化学反応や廃棄物の焼却に伴い排出



● ロードマップが目指すもの



● 栃木県のCO₂排出 (削減) 目標

	2013	2018	~	2030	~	2050
全体	1,946	1,744 ▲10.4%	(▲771)	973 ▲50%	(▲973)	実質 0
エネルギー由来	産業	574	533 ▲7.4%	(▲198)	335 ▲42%	
	交通	465	436 ▲6.2%	(▲185)	251 ▲46%	
	業務	343	257 ▲25.1%	(▲148)	109 ▲68%	
	家庭	316	252 ▲20.3%	(▲164)	88 ▲72%	
非エネルギー由来	248	266 +7.3%	(▲76)	190 ▲23%	(▲190)	

● 各分野における主な取組の柱等

2013 (基準年度) 2018 ~ 2030 ~ 2050

1,946
(単位: 万t-CO₂)

1,744
基準年度比 ▲10.4%

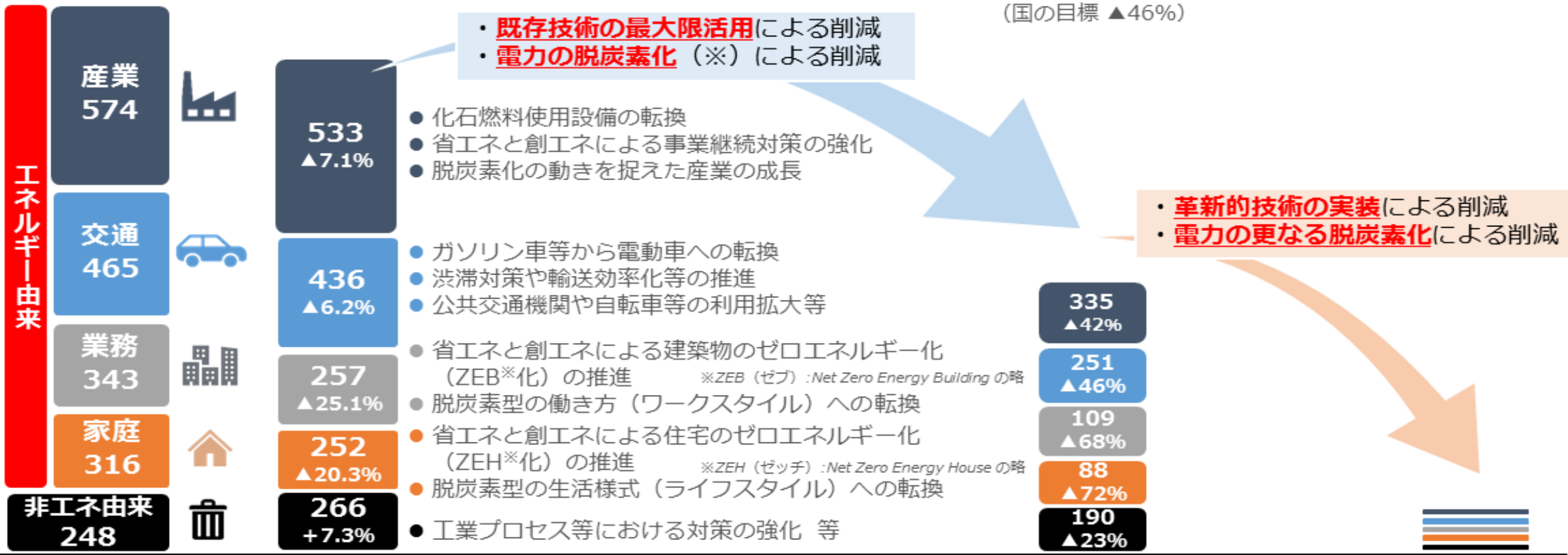
(▲771)

973
基準年度比 ▲50%

(▲973)

実質 0

(国の目標 ▲46%)



吸収源 83 63 ● 森林整備の推進 等

※ 電力の脱炭素化 (国・電力会社主導の取組) 第6次エネルギー基本計画による火力発電の抑制、再生可能エネルギーの主力電源化 (非化石電力の割合 現状24% → 2030年 59%) 電力の更なる脱炭素化

CO₂排出係数 0.522 kg/kWh 0.455 kg/kWh おおよそ半減 実質ゼロ

● 重点プロジェクト（各分野の取組を牽引・加速化）

（1）とちぎグリーン成長産業創出プロジェクト

革新的な技術開発や脱炭素社会に資する産業の創出等の取組を活性化させ、脱炭素を契機とした力強い産業の成長を実現します。

（2）とちぎ再生可能エネルギーMAXプロジェクト

賦存量調査の結果を踏まえ、太陽光、水力、森林等の地域資源を積極的に活用して再生可能エネルギーを最大限導入します。

（3）とちぎ脱炭素先行地域創出プロジェクト

地域特性を踏まえた再生可能エネルギーの最大限導入や省エネ等による脱炭素先行地域を創出し、県内各地に展開します。

（4）とちぎ県庁ゼロカーボンプロジェクト

県庁は率先して2030年度までに2013年度比80%削減を目指し、公用車の電動化等に取り組みます。

